

日朝関係から問う 「明治150年」

2017年度 文化センター・アリラン連続講座(全8回)

2017.4 - 2018.1



「明治150年」にあたる今年、日本では大々的に明治期の歴史を礼賛する雰囲気醸成されつつあります。例えば、内閣官房は「明治150年関連施策推進室」を設け、そこでは「明治以降の歩みを次世代に遺すことや、明治の精神に学び、日本の強みを再認識する」ことが謳われています。「明治以降の歩み」とは、立憲政治・議会政治の導入、技術革新と産業化の推進、教育の充実などであり、「明治の精神」とは、和魂洋才の精神によって、単なる西洋の真似ではない、日本の良さや伝統を活かした技術や文化であるとしています。

このような「明治日本」を礼賛する政治的、社会的風潮は今にはじまったことではなく、司馬遼太郎の作品に代表される、幕末志士や明治の人々の「大国への坂を駆け上がろうとする」姿を英雄化し、日本がアジアで唯一の近代化への成功国である、という歴史像は今や社会に広く浸透しています。また、現在の天皇のみならず、明治以降の天皇に対しても、平和志向の卓越した指導者であったかのような認識が広く見られます。

しかし、こうした近代日本の歴史像は、アジアへの侵略戦争や朝鮮植民地支配の歴史をふまえたものになっていません。「明治日本」を礼賛すればするほど、アジアへの侵略思想と国内・帝国内の差別・抑圧のイデオロギー的根幹となった天皇制の問題は後方に隠され、朝鮮植民地支配の暴力を不可視化するか、あるいはそれを正当化する歴史修正主義的な主張に結びつく傾向があるのではないのでしょうか。日朝関係の近代史をふりかえることで、改めて「明治150年」を真摯に歴史から学ぶことが必要であると私たちは考えます。

特定非営利活動団体法人

文化センター・アリラン

Arirang Center for History and Culture

문화센터 아리랑

2017年度

文化センター・アリラン連続講座(全8回)

Airang Center for History and Culture Lecture Series

総合司会

愼 蒼宇(シン・チャンウ)

鄭 榮桓(チョン・ヨンファン)

場所:文化センター・アリラン閲覧室

参加費:各回1,000円 (事前予約不要 / 60名定員)

お得な全8回連続チケット
¥ 6,000

発売中
!!

第1回 4.15(土)14:00-16:30

「帝国日本の国是となった国体・富国強兵論の深淵を探る

～会沢正志斎・横井小楠・吉田松陰の思想から～



須田努 明治大学教授

「国体」と「富国強兵」とは帝国の途を選択した日本の国是となった。侵略を正当化しアジアに惨禍をもたらしたこの二つの概念はいかに形成されたのかを分析し、日本社会に底流し続けるアイデンティティの様相を考察する。

第2回 5.20(土)14:00-16:30

「戦後日本の象徴天皇制を問う」



伊藤晃 日本近代史研究者

現代の象徴天皇制をいかにみるべきか。戦前の天皇制に批判的な人々のなかでも、現代の天皇制を戦前とは断絶した「護憲・平和」の象徴として肯定する意見は少なくない。だが果たしてそのような見方は妥当なのか。現天皇が象徴天皇制を安定的に引き継ごうとする努力をいかにみるべきか。戦前より神権主義的な国体論とは別個にありつづけた、天皇制論における「国民の天皇」論の系譜を近現代の思想史にたどる。象徴天皇制批判の視座をわれわれはいかにもてばよいのかを考えたい。

第3回 6.17(土)14:00-16:30

「自由民権と朝鮮(福澤諭吉・田中正造を中心に)」

～日本近代社会における朝鮮認識の特質～



中嶋久人 小金井市史編さん委員

日本近代社会において、朝鮮認識とは単なる他者認識ではない。この朝鮮認識の中には、自らの「近代」をどう考えていくかという認識枠組みが内在しているのである。今回は、「近代」への向き合い方が対照的な福澤諭吉と田中正造をとりあげ、この問題を考えていく。

第4回 7.15(土)14:00-16:30

「朝鮮知識人の視た明治日本」



伊藤俊介 福島大学教員

明治維新を経て文明開化と帝国主義化に邁進する日本を朝鮮の知識人たちはどのように見、また何を感じたのか。おもに19世紀末期の朝鮮知識人の日本観を追いつつ、近代朝鮮の日本認識について考えてみたい。

第5回 9.16(土)14:00-16:30

「朝鮮社会から見た伊藤博文」

小川原宏幸 同志社大学教員

明治の元勳である伊藤博文が朝鮮植民地化を推進したことは周知のとおりであるが、その伊藤を当時の朝鮮社会はどのようにとらえていたのだろうか。政治過程と合わせながら、知識人ばかりでなく庶民のとらえ方も併せ考えたい。

第6回 10.14(土)14:00-16:30

「日本民衆による朝鮮人虐殺を考える」

藤野裕子 東京女子大学教員

1923年9月に起きた関東大震災時に、官民双方によって流されたデマをもとに、数千人の朝鮮人が虐殺されたことはよく知られています。さらに重要なことは、日本民衆による朝鮮人の殺害は災害直後だけにとどまらず、日常の労働現場においても起こっていたことです。加害の当事者の証言をふくむ裁判記録を検証し、虐殺の実態や日本民衆の意識、国家権力の関与などを、具体的な事例に即して考えていきます。

第7回 11.25(土)14:00-16:30

「19世紀の蝦夷地・琉球と植民地主義」

檜皮瑞樹 東京経済大学史料室嘱託

明治維新を前後して、蝦夷地と琉球という二つの地域と人々は日本に強制的に編入されました。両地域の編入が近代国家日本における植民地主義の嚆矢であること、両地域の内包化とその際に行使された暴力性、さらには19世紀後半の植民地支配を展望する。

第8回 1.21(日)14:00-16:30

「朝鮮植民地支配と天皇制」

加藤圭木 一橋大学教員

朝鮮植民地支配について考えようとするとき、天皇制の問題を避けては通れません。朝鮮を侵略し、植民地化したのは近代天皇制国家でした。そして、日本の支配は、朝鮮人に対して、天皇に服従し、天皇のために死ぬことを強要しました。本講演は、朝鮮植民地支配の過酷な歴史の視座から、天皇制を問い直してみたいと思います。

文化センター・アリランこれまでの歩みと、お願い

文化センター・アリランは1992年、在日二世の朴載日(パク・チェイル)が私財を投げ打ち、姜徳相館長(カン・ドクサン、滋賀県立大学名誉教授)の協力を得て、在日コリアンの自覚と自立を求める熱い思いで埼玉県川口市に開館し、2009年、新宿大久保に移転いたしました。「アリラン」では図書の間覧だけでなく、連続歴史講座、姜徳相館長による近現代韓日関係史勉強会、差別と暴力を考える会、ビデオ上映会、ハングルで絵本を読む会など、多くの市民の参加を得て活動しております。

「アリラン」の目的は在日コリアンと日本人が出会い、ともに学び交流し、信頼関係をつくることで、民族差別のない「平和で平等な社会」を築くことにあります。そのためには何よりも正しい歴史認識が共有されなければなりません。「アリラン」は日本の歴史教育に欠けているところを補充する場であり、日本の中学・高校・大学のゼミなどの実習の場でもあります。特に最近、厳しい状況にあります日韓・日朝関係を和解に導き、自由な交流を実現するためにも「アリラン」はなくてはならないセンターであります。

運営はすべて会員の会費と募金で賄われております。会員加入は正会員・賛助会員ともに年間1万円(1日28円)の会費をお願いしております。正会員は総会出席の義務が生じますので、お忙しい方や遠方の方々には賛助会員をお勧めしております。

私たちは今後も一層、アリランの発展に励んで参ります。皆様のご協力をお願いいたします。

会員並びに寄付金の納入 郵便為替 00160-9-651648 (文化センター・アリラン)

会員資格など詳細は右記のホームページの「あなたにできること」をご覧ください → <http://www.arirang.or.jp/>

特定非営利活動法人



아리랑
文化センター・アリラン



図書館機能



交流機能



研究機能

文化センター・アリランは
韓国・朝鮮の文化や歴史について広く深く接していく
ための「図書」+「研究」+「交流」の場です。



理事長 金容斗 / 副理事長 宋富子 金根熙
館長 姜徳相(滋賀県立大学名誉教授)

〒169-0072 東京都新宿区大久保1-12-1 第二韓国広場ビル8F

Tel.03-5272-5141 fax.03-3232-0090

<http://www.arirang.or.jp/> info@arirang.or.jp

- ・JR山手線:新大久保から徒歩10分
- ・西武新宿線:西武新宿駅から徒歩7分
- ・大江戸線,副都心線:東新宿線から5分